柿生文化

平成２３年１２月１８日
柿生郷土史料館 情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
第４３号

地名の謎を探る

「籠場（ローバ）」「牢場（ローバ）」地名を考える Ⅰ

皆さんは、下麻生にある徳川秀忠の妻「お江（おごう）」にまつわる伝説のある『籠口の池（ろうぐちのいけ）』をご存じでしょうか。

地元の方の中には『ログチノイケ』と呼んでいらっしゃる方もいるようですが正確には『ローグチノイケ』です。江戸時代の書物「新編武蔵風土記稿」には『ロフロ（ローグチ）』と記されていますので『ローグチ』と呼ぶのが正確でしょう。　ならば『ローグチ』とは一体、何のことでしょうか。同じような地名は麻生区では黒川にもあります。先程の「新編武蔵風土記稿」には黒川の北の方角に『ロウバ』という地名があります。地元では昔は『牢場』と言ったそうです。　また『ロウバ』の入口付近を『ロウグチ』と言っていたようなので、これは下麻生と同じです。

（大正時代の「籠口の池」）

そこで『ロー』とは何を指しているのかをもう少し詳しく調べてみたいと思います。「新編武蔵風土記稿」に出てくる川崎市内の江戸時代の『ロー』のつく地名を調べてみますと、野川村に『籠馬谷（ローバヤト）』・土橋村に『牢馬谷（ローバヤト）』・下菅生村に『籠久保（ロークボ）』・五反田村に『籠馬台（ローバダイ）』『籠馬池（ローバイケ）』・久末村に『籠場谷（ローバヤト）』・木月村に『牢屋敷（ローヤシキ）』などの地名が見られました。現在では、これらの地名の多くは一般的には使われていないようですが通称地名として現在も若干残されています。

さて、川崎市内の『ロー』地名は『籠』と『牢』の漢字が当てられています。『牢』として考えた場合、その場所に『牢屋』があったのではないかということが考えられます。本当にそんなことがあったのでしょうか。

江戸時代の前、後北条氏がこの辺の地域を治めていた時代から後北条氏が滅んだ頃までの時代（戦国時代）では、簡易な「牢」がよく造られていたと考えられます。戦国大名は戦争で勝つと敵の大将や主だった武将は大体首を切ってしまいますが、優秀な敵の家来は家臣として召し抱えたり、一般の武士は身分の低い家来として採用したり、さらには武士の身分は保ちながら農村に居住して農業を営む「郷士」として残したことがよくありました。したがって捕り押さえられた敵の兵士たちは、すぐには殺害せず、しばらくは牢の中に入れ処遇を検討したということが考えられます。

川崎市の周辺地域で『牢』のつく地名は大棚村（現、横浜市都筑区）の『牢場』があります。「新編武蔵風土記稿」にも「大棚村」の項には『此の処昔牢屋ありし跡なり』と記されています。そう考えると『ロー』は『牢』となりそうですが、一方、他の『ローバ』には『籠馬』『籠場』の文字を当てている所が大変多いことが気になります。次回はその辺を考えてみましょう。

（参考資料＝「川崎地名辞典」「新編武蔵風土記稿」）

地震の前兆現象を探るⅣ　関東大震災の時
柿生でナマズが暴れた訳は？

地震前、動物が感じるストレスとは何か

― 大地震前動物たちは
間違いなくストレスを感じている ―

大地震という大異変を動物たちが本能的に感じ取った何らかのストレスとは一体なんなのでしょうか。

このストレスを考える時にヒントになる現象があります。それは、阪神淡路大地震の前後に現われた大気中の異常現象です。

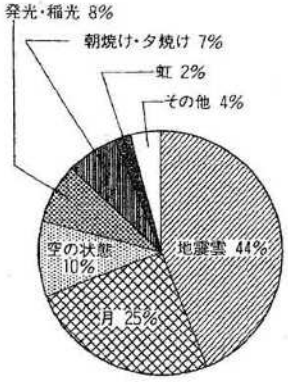
(阪神淡路大地震発生日前に発生した奇妙な地震雲＝神戸市撮影)

多くの人が地震２日前頃から地面に対して垂直で渦巻き状の雲や飛行機雲のような水平で細長い雲を目撃し、また地震発生前後の異状な発光現象。さらにはテレビ、ラジオ等の電波障害などを体験しています。これらの異常現象は多くの人から報告が寄せられました。

地震後ならば解りますが、大地震発生の数日前から直前までこれらの異常現象を感じ、目撃した人が急激に増加(「前兆現象1519」＝弘原海清 監修より)しているということは、やはりそこに地震前兆の何かが発生しているのではないかということを考えざるをえなくなってきます。決して、動物の「第６感」だけですませられることではないような気がしてなりません。ならば発生している何かとは一体、何んなのでしょうか。

(阪神淡路大地震発生直後の発光現象)

大阪大学の池谷元伺氏は、電磁気現象という視点で説明されています。それは墓石などに使う花崗岩の中に見られる半透明白色の石英という鉱物に、一定方向の強い圧力が加わるとプラスとマイナスの電気エネルギーが発生し、更にこの圧力が失われる瞬間に発光現象が起きます。電子ライターやガスコンロの点火はこの原理を使っています。したがって地中のプレート同士がぶつかり合う巨大な力やプレートの歪む時の巨大圧力が作り出す電気エネルギーの発生に動物が感知するのではないかということです。実際に魚のいる水槽に電流を流すという実験では魚が敏感に反応し特にナマズが最も敏感であったという結果も出ています。地中の電気の異常が地表や大気中、特に電離層の電気に異常を与えるということは既にいくつかの大学で実証済みで、地震発生の数日前に震源付近上空の電子の量が異常に増えていたという報告も多数あります。　大地震直前の動物たちのストレスや異常行動は、このような科学的な検証である程度判明してきています。昔は迷信だといわれていた事が今日の科学で少しずつ解明されてきています。ナマズは決して地震を起すのではなく異常を素早く教えてくれる有り難い動物であったわけです。



(阪神淡路大地震の体験で寄せられた空と大気の異常現象とその割合)

(参考資料「大地震の前兆現象」「地震に伴う電磁気現象と動物の異常行動」「前兆証言1519」)

感動！江戸時代～昭和３０年代の農業実演・体験会　11月27日 柿生郷土史料館

初冬の１１月２７日、柿生郷土史料館で江戸時代から昭和３０年代まで使用された農具の使用実演・体験会が行なわれました。

日本では江戸時代中期頃から農作業の効率化と農産物の増産が図られました。その背景として各藩の財政難や天候不順による減産などに対応するため全国的に新しい農具の発明や肥料の改良、品種改良などが盛んに行なわれることになりました。

江戸時代中期以前の農作業の様子は当郷土史料館展示品の「農業全書（江戸時代中期、農学者の宮崎安貞によって著され農業書のバイブル的な存在であった）」に描かれているような状況でした。しかし、祖先のなみなみならぬ努力により今回、特別展で展示されているような農具が改良・発明されることになったわけです。

（「千歯こき」による脱穀＝稲束からモミを取る）

今回の特別展で展示されている農具は、柿生の多くの方々のご協力を得、収集されたものです。その多くは江戸時代中期以降から昭和３０年代初頭にかけて使用されたものです。昭和３０年代初頭といいますと白黒テレビが普及し始めた頃で画面にはヤンマーディーゼル提供の天気予報が歌と共に流れていたことが記憶に残っています。まさに、日本の農業が農具から動力農機具へと変容していったきっかけとなったのがこのヤンマー等の動力であったのではなかったでしょうか。この時代から以降、今回展示されている農具は姿を消し始め機械化がめまぐるしく進んでいくことになります。しかし、江戸時代中期から昭和３０年代にかけての約２世紀半の間も農業技術進歩の画期的な時代であったと思います。展示品の多くの農具を始め、一世を風靡した麻生の細王舎の農機具などは人々の生活を大きく変えるものとなりました。私たちの祖先が汗を流し工夫に工夫を重ねてきた努力の結晶であるわけです。今回参加された方々はきっとそんな祖先の血と汗の結晶と知恵を体感されたことと思います。

（「足踏み脱穀機」＝稲束からモミを取る）

（「唐箕」による選別作業＝ワラとモミを分ける）

（「木槌」による脱穀＝モミから玄米を取り出す）

今回の農業実演・体験では、稲束から籾（もみ）を取る**「千歯こき」「足踏み脱穀機」**、籾とワラくずを選別する**「唐箕（とうみ）」**等を使用し、玄米から籾殻を取り除くのは動力式の脱穀機を使用しました。その結果、約１斗５升（灯油の1斗缶で1.5本）の玄米を取ることができました。

なお、岡上の梶久夫氏のご好意で５０束の稲を提供いただきました。大変有難うございました。

（支援委員より「唐箕」について話を聞く中学生）

全国地名研究者大会に参加して

「東日本大震災」で改めて地名の大切さを実感！地名が語るものとは

(講演される谷川健一氏)

１０月２９日、川崎市国際交流センターにおいて「全国地名研究者大会」が開催され、日本地名研究所所長の谷川健一氏をはじめ７名の研究者の講演が行なわれました。

谷川氏からは、沖縄の城(グスク)の特性と１１世紀の日宋貿易に関わる南島文化圏についてお話がありました。また、弘前大学教授の斎藤利男氏からは古代末期の奥州藤原氏と蝦夷(エゾ)との交易関係について大変貴重なお話を伺いました。

さらに、谷川所長からは３月１１日の東日本大震災に関連させ、「地名を切ることは過去を断絶することである」とされ、地名のなかには災害に関する多くの過去の記憶が残されており、それを探究することが喫緊の課題であり「過去を大切にすることで未来を作る」という重要な示唆をいただきました。

∈∋∈∋∈∋ 柿生郷土史料館開館のご案内 ∈∋∈∋∈∋

開館時間

開館：午前１０時
閉館：午後　３時

１２月　３日(土)	特別展解説	11:00~	１月　８日(日)	特別展解説	14:00~
１２月１０日(土)	特別展解説	14:00~	１月１５日(日)	特別展解説	11:00~
１２月１７日(土)	カルチャーS	14:00~	１月２２日(日)	特別展解説	14:00~
１２月２４日(土)	特別展解説	11:00~	１月２９日(日)	特別展解説	11:00~

∈∋∈∋ 柿生郷土史料館１２・１・２月の催物 ∈∋∈∋

(特別企画展)　　※ お問い合わせ ９８８－０００４(柿生中学校)

第４回 特 別 企 画 展

ご好評により３月まで延長いたします！

■テーマ　「郷土の古民具と信仰展」 ― 農事・生活と信仰の姿 ―

■開館日　１２月→土曜日 ・１月→日曜日 ・２月→土曜日 ・３月→日曜日
※１月１日は休館日とします。

(各種セミナー)

第３１回 カルチャーセミナー

■テーマ　「柳田国男の世界」～ 柳田と共に歩んだ時代を語る～
―― 柳田の感じた多摩・麻生の魅力を解き明かす ――

■講 師　箕輪 敏行 氏
■日 時　１２月１７日(土) 14：00～
■会 場　柿生郷土史料館